

示が十分でなく、今後の定量的な研究が必要である。

金属元素の起源については、Auのみならず他の元素についても、母岩中の微量なものが変成作用時の熱や母岩に含まれる水の循環で濃集し、鉱脈を形成した立場をロシア側の委員会はとっている。これは勿論一つの解釈であって、マグマ活動に関連づける解釈も成立するはずである。今後は違った立場から詳細に研究する必要がある。

文 献

- 石原舜三(1985): テネシー州のミンシッピバレー型鉱床. 地質ニュース, no. 375, 6-19.
- Nokleberg, W. J. and 10 others(1993): Metallogenesis of Mainland Alaska and the Russian Northeast. U. S. Geol. Surv. Open File Rept. 93-339, 222 p.
- 武内寿久彌・佐藤興平(1990): オーストリアの Felbertal 層準規制型灰重石鉱床. 地質ニュース no. 427, 40-48.

ISHIHARA Shunso and KAMITANI Masaharu (1994):
Mineral resources of the northern Far East Russia.

〈受付: 1994年5月9日〉

アムール低地寸景

ハバロフスクから西に向かうシベリア鉄道は、アムール川の鉄橋を渡ってから3時間ほど、湿地帯の広がる低地を走る。所々に群生するかぼそい白樺以外に目に入るものはない。

アムール川の河口から500 km 以上も遡ったこの辺りでも、低いところは標高が50 m を下回る。このアムール低地は、第三紀以来ずっと低地であったらしい。この地下には、古第三紀以降の地層が厚く積もっているという。ハバロフスクの市街地はその一角に現れた基盤(ジュラ紀付加体)の上に築かれている。

この低地を過ぎると、ヒンガンの山並が見えて来る。西側の基盤すなわちブレヤ地塊の古期岩類(先カンブリア紀-古生代の堆積岩・変成岩・花崗岩類など)からなる地帯である。(佐藤興平)

